

【L O M内で新型コロナウイルス感染症患者が発生した際の措置について】

1 1月5日、L O MメンバーがP C R検査によって新型コロナウイルス感染症陽性と診断された件について、日本J Cの作成したガイドライン『J Cメンバーに新型コロナウイルス感染者が発生した場合の対応について』（添付資料を参考）における「J C運動以外でメンバーに感染者が発生した場合（ケース2）」（J C運動以外で感染し、感染発覚から遡って2週間以内にL O MのJ C運動に参加していた場合）に該当したため、以下の措置を行った。

感染発覚6日前（2020年10月30日）

- ・ 発熱等の症状があったが、その報告は無かった。

感染発覚当日（2020年11月6日）

- ・ P C R検査陽性の連絡を受けたのち、推測される感染ルートや現在の症状、入院先の病院等の情報を聴取。現役会員との接触は、発症日とされる10月30日の2日前に行われた理事会が該当する。保健所の見解では、マスクをしての会議は濃厚接触には当たらないと判断される。

感染発覚当日（2020年11月7日）

- ・ 兵庫ブロック協議会の運営専務に連絡。L O M内で感染者が発生したことを伝える。
- ・ L O M内で感染者が発生したこと、それに伴って2週間の活動自粛及びメンバーの交流を禁止する旨の内容を現役メールにて配信を行う。
- ・ 感染発覚から遡って2週間以内に参加したL O M内のJ C運動は、2020年度第10回理事会であったため、会議に参加したメンバー全員に電話連絡を行った。
- ・ 姫路市保健所に会議の参加者が濃厚接触者に当たるかを確認。濃厚接触者は「症状が発現する2日前以降に一定の条件下で接触した者」とされており、10月28日以前に接触のあった者は濃厚接触に当たらないため、P C R検査の対象にはならない（受けることができない）とのこと。一定条件とは、マスク等をしない状態での会話をしたりすることであり、対面でなくマスク着用での会議はそれに当たらないと判断するとのこと。また、その場での軽食等があってもそれに当たらないことを確認した。
- ・ 感染者と10月28日に会食を行い濃厚接触したと思われるメンバー4名、11月4日に打合せを共にした1名に関しては、P C R検査を受けるよう連絡を行った（連絡をした時点で感染者本人より連絡があり、すでに手配済みの方もいた）。
- ・ シニアクラブ執行部にL O M内で感染者が発生した旨を連絡。

感染発覚以降

11月9日

- ・ 「L OMにおける感染者発生チェックシート」を兵庫ブロックに提出。
- ・ 事務局員にL OM内で感染者が発生した旨を連絡。
- ・ 感染者本人と連絡、症状の確認。
- ・ 濃厚接触者に連絡。PCR検査の結果で陰性の結果2名、結果待ちが1名。
- ・ 濃厚接触者で検査がまだの接触者に再度連絡。

11月9日

- ・ 濃厚接触者のPCR検査について会員より問い合わせ有。
- ・ 濃厚接触者の人数と現在の結果を開示することを検討。

11月10日

- ・ 保健所に相談→事実確認に時間がかかるため本日、明日中に回答
- ・ 濃厚接触者に関しては検査機関にて抗体検査を実施（3名）

→結果3名既往歴無し(11月10日19時10分)

- ・ 保健所からの折り返し待ち→抗体検査の結果を伝え、PCR検査の必要性があるのかを協議する予定
- ・ 保健所より連絡が無いため再度連絡→発症からの期間及び抗体検査で陰性の結果が出ているのであればPCR検査は必要なしとのこと。（保健所予防課：中安様）

※抗体検査とは病原体に対する専門攻撃隊（抗体）が存在するのかを調べる検査で、既往歴無と判断されれば感染していないこととなり、既往歴有の場合はおおそ時期かがわかるものである。（抗体の種類が2種類ありその数値より初期症状及び検査日に近い日に感染していたこともわかる）

- ・ 11月9日の検査結果待ちの会員は陰性との報告有（これに関しては、保健所に相談し検査の必要はないと判断されたが、任意で検査を受けた会員である）

その後は、感染者との経過確認の連絡や、各方面からの電話対応を随時行う。

その他

委員長より、「委員会メンバーから感染者についての質問が寄せられている」と連絡があったが、「濃厚接触者に関しては専務理事より直接電話で伝えています」と答えてもらう

よう、対応した。濃厚接触者からの枝を追うことは当事者それぞれにお願いした。

L O M内で感染者が発生した際は、感染の「枝」をいかに早く止めるかが、重要であり、今回の対応は、発症日から約1週間あいたことで枝を抑えることに遅れが生じた。

感染者が増えてきている情勢をみると体調の異常は未だ油断できない一因であると考え
る。感染者と接触のあった者にまず連絡を行い、その接触者からさらに接触した者に連絡
を行うことで、感染拡大を最小限に食い止めることができるのではないかと考える。

また、今回会員に対しての不明確要素が多かったことに対しては、不安を少しでも軽減さ
せ皆が活動できるよう情報の共有は行っていくべきであると考えます。

各地で感染者が増加傾向にあるが、「マスクを外しての近距離・大声での会話」が感染の
主な原因と言われており、多人数での会食等は控えるべきであるが、全員のマスク着用下
での講演の聴講や、ソーシャルディスタンスを保った会議等は可能であると考えます。

(文書作成者 専務理事 吉原秀一)